

風の谷 びゅう **VIEW**

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



やまびこ工房

ご協力
ありがとうございました

地域交流バザー特集号

【2017年 夏号】

- | | | | |
|-------------------|-------|--------------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇自閉症支援センターより～それぞれ～ | P 3 |
| ◇特集「第18回地域交流バザー」 | P 4・5 | ◇全国障害者支援研究セミナー研修報告 | P 6 |
| ◇ヘルパー便り・グループホーム便り | P 7 | ◇後援会のページ | P 8 |

あれからの一年とこれから

昨年の7月26日未明に相模原市緑区に所在する県立津久井やまゆり園で発生したあの惨劇から、早一年が経とうとしています。当法人の関係者も複数の方が直接的な被害に遭われ、いまだ無念の思いを拭えずにあります。

昨年7月15日発行の『風の谷 VIEW』の巻頭文に、障害のある人たちの地域生活を支えるには他機関や他事業所とのネットワークが欠かせず重要であることを書かせていただきました。当法人が利用者支援のネットワークを構築する上で、津久井やまゆり園はなくてはならない大変大きな存在でした。と云いますのも、平日の通所事業をベースに活動している私たちにとっては、週末の短期入所利用をしっかりとサポートしていただけるとても頼もしい存在だったのです。

津久井やまゆり園とはこの間、強いこだわり等行動障害を伴う自閉症の方に対応していただける頼りになる専門機関として、日常的な情報交換も含めて関係を築いてきました。ここに至るまでには多年にわたる現場間の交流やカンファレンス等を地道に積み重ねてきた結果でもあるかと思っています。そのように、ますます重要な存在になってきたとの実感を抱かせていただいた矢先に、あの許しがたい事件が発生してしまい、その結果、あの日を境に大いに頼りにしていた短期入所が利用できなくなってしまったのです。津久井やまゆり園の短期入所には、やまびこ工房の利用者を含め相模原市在住の人を中心に60名近い方が利用登録されていたとの情報もあり、津久井やまゆり園の職員体制があればこそ受け入れ可能だった方たちの地域生活を支えてきた重要な機能が、ある日突然失われたことの重大さに足が震えるような怖れを感じました。

昨年の10月には相模原市長あてに、相模原市障害福祉事業所協会を通して、津久井やまゆり園の短期入所事業再開のめどが立たない中で、短期入所サービスを必要とする相模原市民が困難な状況に直面していることから、具体的な対応策を迅速に講じていただきたい旨の要望書を提出させていただきました。

一方で、私たちは、やまびこ工房と第二やまびこ工房を合わせて計16床の短期入所枠を持っていますが、通所事業をベースにしている私たちの力だけでは十分に稼働させることができない現状にあります。せつかく建物も設備も用意し、事業指定も受けているのだから、これをより効率的に稼働させるために、相模原市には人の配置につながるような公的な支援策を強く望みたいと思います。

また、こうした状況の中、当法人の本年度事業計画の中でグループホーム開設準備に着手することが決定しました。利用者の皆様のご意見ご要望をできる限り反映させるよう努めながら準備に当たりたいと存じます。

障害のある人たちが地域社会の中で、胸を張ってのびやかに生活できる環境を整えていくことこそが、障害者の存在を否定するような事件を引き起こさせない何よりの抑止力になると信じます。

常務理事 中島博幸

相模原自閉症支援センター便り

～それぞれ～

ある40代の重度の知的障害を伴う自閉症者は、70代の健康の不安を抱える父や母と生活をされている。平日の日中はやまびこ工房へ通う。帰宅後、おやつや夕食、入浴、服薬、洗濯などご家族の支援すべきことは多い。70代ともなると大変である。だから週に1泊か2泊短期入所を利用する。ご家族にとって休める時間であり、本人にとっても自分のペースで過ごせるのなら良い気分転換になる。週末は、やまびこ工房も短期入所も休所である。家の中でゴロゴロしているのも悪くはないが、1日休めば十分だ。体を動かしたいし、外食もしたくなってくる。ご両親は一緒に外出するのは難しい。本人の歩くペースが速く、ご両親は着いていくことが出来ない。突然、走りだしてしまうこともあれば、公共の場所で大声を出してしまうこともあり、気が気でない。だから行動援護サービスを利用して外出している。

時にご家族が入院することもある。何とか支えようと短期入所や行動援護の調整に苦慮する。支援者が足りないのだ。そんな時はいつもヒヤヒヤする。いつ退院するかわからない状況で、1日1日できることをする。明日どうしよう、明後日どうしようを考える。どうにかこうにかしているうちに退院の日が決まり、いつもの生活に戻る。安堵しているのも束の間で、また別のご家族にも同じようなことが起きたり、あるいはご本人が病気になり、入院しなくてはならない状況になったりもする。ご家族にとっても支援者にとっても不安は尽きない。そんなことなら24時間365日支援が受けられて、医師や看護師もサポートしてくれる入所施設の方がいい。それなら不安が解消される。しかし、国の政策上入所施設利用者は減らしていくこととなっているから、入所は難しい。せめてグループホームを利用できればご家族や支援者は考えてしまう。では、本人は？

70代になっても不安を抱えながら生活するくらいなら、できるだけ早く入所施設やグループホームの利用を考えてしまうかもしれない。生まれてきた子供に障害があることがわかった時点で、不安はあったはずで、解決された不安もあれば、10年20年と解決されない不安もあったはずである。それを負として考えがちなのだが、自分はそうとは言い切れなかったと考えていた。それを言語化した言葉に出会った。“**ネガティブ ケイパビリティ**”という言葉である。精神科医にして小説家である帚木蓬正氏がこの言葉を研究され『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』（朝日新聞出版）を上梓されている。この言葉は、ロマン主義時代のイギリスの詩人ジョン・キーツが弟に送った手紙に記されていて「それは事実や理由をせつかに求めず、不確かさや不思議さ、懷疑の中にいられる能力」だという。

重度の知的障害を伴う自閉症者と向き合い、意思を訊く。知的障害があるので、言葉での意思疎通にどうしても限界がある。表情や行動から意思表示を推測するので時間をかけて確かめてゆく。自閉症であるので独特の感覚を持っている。その感覚も類推する。さらに想像力の障害がある。今後のことを決めるには想像力は必須だ。けれども経験したことなら意思表示できる。意思を訊くためには体験が前提なので時間を要す。答えが出ないこともある。答えを出さない方がいいこともある。それに耐えられることも能力なのである。

(薬師丸)

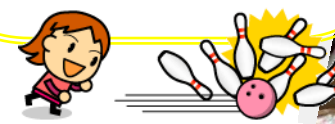


6月4日(日)今年もやってきました地域交流バザー！
 日頃からお世話になっている皆さまへ感謝の気持ちを伝えたい、そして交流の場を持ちたいという思いで続いているこのイベント。早いもので18回目を迎えることができました。私たち支援員にとってこのバザーは、地域の皆さまをはじめ、やまびこ会やボランティアの皆さまとの交流を通して自分たちがたくさんの方々に支えていただいていることを実感できる大切な場でもあります。
 当日は天候にも恵まれ、雲一つない気持ちのいい青空が広がる中、今年も多くの方々に足を運んでいただきました。
 そんなバザーの様子を少しだけ紹介させていただきます。



★いつも盛況な自主製作品コーナー★
 今年は、新商品として第二やまびこ工場の製品も多数並びました！

欲しい景品を目標に、ボウリングゲームは白熱していました!!!



★子どもコーナー★

第18回 地域交流バザー

★やきそばコーナー★

熱さと戦う！焼きそば担当。いつの間にか若手の焼きそば作りが恒例となりました。



NEW!★お団子コーナー★
 新商品の串団子は、なんと焼きそばや焼き鳥より早く完売してしまいました！
 看板娘の効果か？！



★喫茶コーナー★

ドゥ・シルフィードさんの演奏が始まると、皆さん自然と聴き入って、あっという間に優雅な喫茶スペースに早変わり！



★本格！やきとろいコーナー★

いつもおいしい食事を提供してくださるワーカーズキュービック相模原さん。バザーでは美味しい焼き鳥屋に大変身！



全国障害者支援研究セミナーに参加して ～本人中心の支援と共生のまちづくり～

今回行われたセミナーは、「本人中心の支援と共生のまちづくり」をテーマとして開催されました。去年の津久井やまゆり園での事件を受け、改めて共生社会を目指す職員としての役割や在り方を学び、考えさせられました。

基調講演では、横浜市栄区社会福祉協議会会長の日浦美智江氏が講演を行われ、人として当たり前の存在であることについて述べられ、根柢の部分から見つめ直されていましたが、まだ新しい福祉の歴史の中で、制度や法律があつての支援になりがちな部分も少なくないことが現状であることを問われています。本当に必要な支援であるための制度であることが重要であり、本人中心の支援の形であることを学びました。

人の存在を、「生きている」ことを証明するのが周囲との関わりであり、それが社会参加や共生を目標としていく意義であることを述べられ、社会の中で本人の意思を尊重し、本人なりの活動を行っていくことの機会や、そこに至るまでのプロセスを考えることが取り組むべきことなのだ解釈しています。

シンポジウムでは、3名のシンポジストの方々が各々取り組まれている支援について述べられています。それぞれ色は違いますが、「本人の為」に支援をされていることが伝わってくるものでした。様々な事例がありますが、人の数だけ支援の方法もあるかと思います。私自身、これからも一人ひとりを考え、支援に努めていきたいと思っております。

(大塚)

全国障害者生活支援研究セミナー(通称サポ研)の2日目、私は分科会2「本音で語ろう、ともに生きる社会」に参加をしてきました。この分科会では改めて相模原事件について理解を深めるとともに、共生社会に向けて私たち支援者はどうしていかなければならないのかを午前の基調講演と午後のディスカッションにわけて学びました。県内、或いは県外から、相模原事件について自分事として捉え、または第一人者として関わってこられた方々が集まり、2日を通してとても熱量のある研修会が行われました。その中でも、明治学院大学名誉教授の中野敏子氏による基調講演「相模原事件を超えて… 私たちに求められる課題」では、相模原事件がメディアによってどのように見える化されてきたのかを広い視野から言及し、私たち支援者も気付かなかつたような見解を示されました。

知らないことを知ることができるということは、研修に参加する一番の醍醐味であると私は感じていますが、いつのまにか遠ざけてしまっていた事実を知ること大切なことだと思っています。今回のセミナーで「今私たちがしなければならないことは何なのか」という問題提起がありました。私はこれまで、やりたいこと、できることをしてきたと思います。私のしなければならないこと、私たちの使命とは何か…セミナーを終えた今でも未だ、私は結論に至らず、漠然と何かを考えているだけのようになります。このように私はまだまだ至らない点ばかりなので、これからもこのような素晴らしい研修会に積極的な参加をしていき、そんな漠然とした思いでもカタチにできるよう、進んでいきたいと思っております。

(佐野)

ヘルパー便り

～自分の意思で判断し決定する力を覚えることが出来た時間～

青梅の鉄道博物館にSさんと出かけてきました。行動援護でのガイドヘルプです。

Sさんは、身長が187cmととても背が高いです。行きの八高線では、電車の先頭車両に乗り、運転士席のほぼ真後ろに立って乗っていました。5月の連休中の晴れた日で、電車ファンの学生さん達と並んでとても嬉しそうな声を出して、時に体を大きく揺らしていました。

鉄道博物館は行ったことがある場所で、Sさんの頭の中には経路や訪れた場所がしっかり入っていました。青梅駅に着き昼食の時間。以前来た時にはマクドナルドで食べたようで、そこに決めていました。しかし私が事前にネットで調べてみると、閉店していることがわかりました。

Sさんは、マクドナルドがない場合どうするのだろうか。それを知りたいと思いました。念のため、事前に周辺の飲食店はリサーチしておきました。そして、Sさんをヘルパーの私は見守りました。

Sさんは青梅駅を出るとマクドナルドがあった場所へ向かいましたがありません。その代わりにモスバーガーがありました。入る様子はなく店の前を通過しました。それから187cmの身長から周辺をしばらく見渡し、駅から少し離れた中華料理屋を見つけてお店の前に行きました。いいお店を見つけたと私は思いました。Sさんは中華料理のお店によく入ります。しかし、残念なことに準備中でした。Sさんはしばらく立ち止まり、また駅のロータリーに戻り、先ほど素通りしたモスバーガーへ入りました。そして、フィレオフィッシュバーガーのセットを注文すると美味しく食べていました。

あるはずのお店がなくなり、同じハンバーガーが食べられるお店を確認した。でもラーメンに惹かれるがやっていない。そんな状況で、一度は通過した『モスバーガーにしよう！』そう決めたのかもしれませんが。状況をもとに考えて自分の意思で決める。ヘルパーは見守っていただけです。ガイヘル活動等のこれまでの多くの経験が活かされていると思いました。ヘルパーとしてその場にいられて『すごい』と感じる瞬間でした。それは、お店を選ぶ場面だけでなく、Sさんの日常の中で繰り返されているのかもしれませんが。その後、Sさんは鉄道博物館へ続く坂道を大きな歩幅で歩いていきました。

(畑山)

ナウシカ便り

～探る日々～

ナウシカには5名の方が入居されています。皆さん約10年ここで暮らしてこられました。その暮らしの中で出来上がってきた過ごし方があるようです。

音楽を聴くことが好きな方は、タブレットを使いこなされながら予めダウンロードしておいたミュージックビデオを楽しまれ、その歌詞やタイトル、時には作詞家の名前を紙に書き出されていることがあります。

本をよく手にしている方もいらっしゃいます。でもその方は中もご覧になっていますが、主に端からパラパラとページをめくり、耳に近づけて音と感触を楽しまれています。

それぞれの方に楽しみ方があり、私たちは普通の過ごされ方から推測していくこととなります。様々な形でヒントをくれる皆さんの意図にかなった場所にしていけるように、目をこらし、耳を澄ませながら、今日も邪魔をしないようにそれを生かす方法を探っています。

(野田)

後援会のページ

後援会の皆様には「風の谷」をご支援いただき有難うございます。6月4日にやまびこ工房で地域交流バザーを開催しました。真夏のような天気で暑かったのですが、盛況の内に無事終えることができました。開催にご協力いただいた各方面の皆様にご心より御礼申し上げます。

津久井やまゆり園の事件からもう少しで一年が過ぎようとしています。あれだけ大きく扱っていたマスコミの報道もすっかり鳴りを潜め、残念ながら社会の関心も随分と薄れて来たように思います。しかし良く考えてみれば、この事件で浮かび上がったいろいろな問題点は一つ解決していません。

例えば、何故被疑者はあの様な偏った考え方を持ったのか？それを防ぐにはどうしたら良いのか？どうすれば障害者が安心して幸せに暮らせるのか？そのために親兄弟や施設職員、そして行政もどう考えどう行動すべきなのか？等々

誰もが明日障害者になってしまう可能性を持っていますし、何れ歳を取れば介護が必要になります。健常者・障害者・高齢者その他様々の立場の人が互を認め、支え合って行けるような優しい社会になって欲しいものです。

風の谷後援会会長 堀田脩司

平成28年12月6日～平成29年5月10日現在（五十音順敬称略）

※前回の広報にて更新者の記載漏れがありました。

関係者様にはお詫びを申し上げますと共に、今月号にて記載させていただきます。

【新規個人】

(相模原市) 竹内英次 日下部喜美子 吉田さやか

(横浜市) 鷺谷廣道(東京都) 堀田昌弘 (北海道) 日下部信正

【更新個人】

(相模原市) 安藤美由紀 石崎守 井上響子 井上進 内田まゆみ 大久保敬二 大久保秀俊 大島悟郎

大庭順子 川島和章 小針徳枝 近藤幸子 斉藤多賀子 佐藤しづ子 清水悟 清水徹 菅照雄

鈴木秀美 高橋ユキ江 都築尚一 豊田幸男 中村成美 縄島健一 藤井則子 古澤倫子 辺見祐二

堀田脩司 政野大 政野光廣 松木千枝子 三田二三夫 百田紀久男 山崎テル代

(厚木市) 新井靖数 佐藤つかえ 藤野孝夫 藤野喜友 山井京子 (上田市) 合津紀子

(海老名市) 鶴田佳子 (川崎市) 上野悟 (座間市) 大澤宏二 上城洋一 工藤真弓 田口賢二

(堺市) 守屋恵美子 (町田市) 山本昭子 (盛岡市) 源新和子 (横須賀市) 浅羽昭子

(横浜市) 青山恵子 内藤美也子

【ご寄付・ご協力】

木下謙三 新宿自治会 新宿小学校 ドウ・シルフィード 田名地区社協ボランティアセンター 藤野孝夫

(有) 伸和トラスト ワーカーズキュービック相模原

その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345